

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	金沢大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	カナザワダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	「創成研究Ⅰ」「創成研究Ⅱ」
	学部・研究科等名	大学院自然科学研究科
	担当教職員名・役職	田村和弘・教授
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	9
	受入企業等数	6
	受入企業等名	記載しない(企業への理解を得ていないため)
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ,4.他県をまたぐ広域インターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業・官公庁に赴いて特定の研究テーマ・技術的課題に、企業側研修担当者・本学教員とともに連携して取り組み、企業側関係者・本学教員の前でその内容についてプレゼンテーションを行う。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している,6.当該インターンシップは、選択科目として実施している,7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	博士前期課程1年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	創成研究Ⅰ2単位/創成研究Ⅱ2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	夏期休業中及び後期授業期間(10月～1月)中に授業科目「創成研究Ⅱ」として長期派遣型インターンシップ(大学で実施する予備実験等の準備期間を含む120時間以上)を実施。受講者の希望するインターンシップ課題と企業側の課題テーマとのマッチングを行うことで、学生の主体性・アイディアに基づいたインターンシップを通じ、その専門性の社会還元と経験を積むことにより、高い就業意識と職業観の育成につなげる努力をしている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等へ赴き、学生と面談を実施している,2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	前期開講授業科目「創成研究Ⅰ」(全15回)の事前教育科目の中で、インターンシップの趣旨や目的の理解(1回)、自己分析・業態研究とキャリアパス形成演習(3回)、安全管理・ヒューマンエラー演習(2回)、知的財産・機密保持に関する講義(3回)、派遣候補先企業の課題提案の分析(3回)等を実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	後期開講授業科目「創成研究Ⅱ」では、長期派遣型インターンシップ中に、その進行状況や問題点とその解決方法を、毎週1回提出される週間実績報告書を用いて振り返りを行っている。また、本学教員や在学生のほか、受入企業側研修担当者を招いて成果報告会を実施している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	企業派遣中の区切りとなる時期を数回設定し、学生・企業・教員間で三者あるいは二者面談による進捗状況報告を実施している。
要	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている,4.その他

素④	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	学生のモチベーションを高め、コンペティションの涵養のため、成果報告会での発表に対してベストプレゼンテーション賞を設け、優秀な学生を研究科長から表彰する制度をつくっている。
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	評価は週間実績報告書・実施報告書及び成果報告会でのプレゼンテーションに基づいて評価する。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している。2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間10-30日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間10-30日間(うちインターンシップ実施期間10-24日)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
要素⑥	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前・事後学習を除いて、受入先企業で10-24日間の日数で実施している。
	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
要素⑦	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前に意義や目的を受入企業に御理解いただいた上で学生が企業と協働し、実務経験を積み、更に学生との協議により課題内容の修正が可能なように企業から大括りの課題提案をいただいている。また実施中も受入企業担当者と本学教員との面談の場を設け、受入れに係る負担感の軽減に努めている。成果発表会には受入企業担当者も参加し、評価コメントを頂く事で今後のインターンシップの改善に対するフィードバックの機会を設けている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://www.se.kanazawa-u.ac.jp/sangaku/
問い合わせ先	大学等名	金沢大学
	担当部署名	理工系事務部学生課大学院係
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	076-234-6817
	メールアドレス	intern@adm.kanazawa-u.ac.jp